

『蕎麦屋の食べ歩き 100 回達成！』

江戸ソバリエ 12 期 大西正洋

蕎麦の食べ歩きの会が 2026 年 5 月に 100 回目を迎えました。2014 年 6 月の第 1 回目の蕎麦上人（浅草）から 12 年かけて達成しました。新型コロナウイルスのため、3 年以上のブランクがありましたが、楽しみながら続けてきました。100 回目はこの会の提言者である関崎泰博さんと江戸ソバリエ協会ほしひかる理事長をゲストに招き、「SOBA 満月」（新越谷）で開催しました。

100 回の内訳は東京 53 回、埼玉 47 回です。同じお店に何回も通っているため、今まで訪れた店舗数は 69（東京 41、埼玉 28）です。100 回目のこのお店は 5 回目の訪問で、一番多く訪れています。訪問する蕎麦屋は越谷・春日部から比較的近い場所を選んでいきます。



「蕎麦の名店めぐり」と称して、埼玉県越谷市で活動する「しらこぼと蕎麦打ち会」で関崎さんが蕎麦屋の食べ歩きのキッカケを始めました。食べ歩きの会は毎月 1 回の開催で、東京と埼玉の蕎麦屋を交互に訪れるようにしました。当初はその都度、参加者を募集していました。

第 1 回目は浅草の蕎麦上人で開催し、関崎さんより蕎麦屋の系譜（藪・砂場・更科・一茶庵）などの解説があり、単なる飲食だけでなく、江戸ソバリエの「舌学」に相当するものとして、始まりました。関崎さんが北海道転勤になり、第 2 2 回目以降は残されたメンバーで継続していく事となりました。

その後、江戸ソバリエの資格を持つ仲間も増え、どちらかという「蕎麦を食べる飲み会」として楽しんでいました。東川口のお店で越谷の蕎麦打ち会仲間である事を話したら、越谷の蕎麦屋の 2 代目が先代の蕎麦屋を手打ちに変えるため、休業に来ていると紹介されました。そのお店が「SOBA 満月」です。蕎麦屋のリニューアルオープン以降、しらこぼと蕎麦打ち会と蕎麦打ちで交流したり、名店めぐりの会でも度々利用させて頂き、蕎麦と料理を楽しませて頂いております。

新型コロナウイルスの影響で3年以上の中断を余儀なくされましたが、名店めぐりの会はメンバーを8名（江戸ソバリエは5名）に固定して再開しました。新型コロナウイルス以降も人数制限を継続しているお店もあり、また夜の営業の縮小などがあり、残念ながら再度の訪問が出来ていないお店もあります。

蕎麦粉の産地表示をする蕎麦屋は当たり前で、自家製粉するお店も多いです。二八蕎麦、十割蕎麦、粗挽き蕎麦など色々な蕎麦を楽しめます。食べ歩きでは、蕎麦が一番大事ですが、蕎麦前も楽しみのひとつです。定番のつまみだけでなく、蕎麦掻きがある店では、必ず注文します。一人で蕎麦掻きを食べるとお腹一杯になり、他のものが食べられなくなるので、みんなでシェアして楽しんでいます。蕎麦掻きをメニューの載せているお店は蕎麦粉の味に自信を持っていると思っています。当然、蕎麦も美味しいお店だと認識しています。

100回すべて参加したメンバーは誰もいませんが、私が一番多く参加しています。足の骨折などで3回欠席しました。今後も楽しみながら、蕎麦屋を応援するつもりで食べ歩きを続けたいと思っています。新しい蕎麦屋を探すのに、「蕎麦春秋」や蕎麦屋店主の情報に役にたっています。

今後も食べ歩きを続け、200回を目指し、江戸ソバリエ宣言のように「粋な仲間と楽しく イッパイ やろう」と思っています。



写真中央のほしひかる理事長の左が関崎さん、右が女将と店主です。